

特集：「さようなら ブラウン先生」

ブラウン先生は、カナダ合同教会の宣教師として長いこと、東洋英和や山梨英和、静岡英和で教鞭をとっていらっしゃいましたが、定年を迎えられ、カナダに帰国されました。

先生の日本でのお働きに感謝の思いをこめて、この3月に行われました「感謝の集い」のもようをお伝えいたします。

メリル・ブラウン宣教師への感謝の集い

日時 1996年3月5日(火) 午後1:00~3:00

場所 東洋英和女学院中・高等部集会室

出席者 ◎生田教会 … 禿牧師夫妻 ◎E T会会員 …… 旧教職員 ◎中高教職員
◎理事長 … 亀徳理事長 ◎東光会・同窓会 … 役員
◎常任理事 … 田島理事 ◎母の会 …… 役員

プログラム

司会 小池先生

第一部 讚美歌 213 奏楽 河野先生
祈禱 吾妻先生

第二部 午餐会

第三部 ○祝辞・送辞

ブラウン宣教師の紹介 … 清野部長

禿牧師

東光会代表 … 高野会長

E T会会員 … 鳥居先生

同窓会代表 … 佐藤副会長

理事会 …… 亀徳理事長

教職員代表 … 朽木先生・松田先生

第四部 ○ブラウン宣教師のお言葉

『日本での宣教活動での思いで』

第五部 ○記念品贈呈 …… 中村(裕)先生

母の会記念品贈呈 …… 母の会代表 阿部会長

○閉会祈禱 …… 黒川部長

ブラウン宣教師の紹介



「ブラウン宣教師への感謝の集い」で
お話をなさるブラウン先生

ブラウン先生については今年度の論叢第19号にMY STORYを載せていらっしゃいますので先生のお働きについてご存じの方も多と思います。今日は先生のお働きが私ども中高部の教師、生徒にとりまして本当に大きいものであったことをお伝えしたいと存じます。先生はカナダのウイニペッグでお生まれになりました。3人のおにいさまのあと年のはなれた娘としてご両親に大切に育てられました。父方のおじいさまは1日に2回礼拝をまもり、母方のおじいさまはレイマンとして説教をなさる信仰の厚い方々でした。先生も教会学校に通われ、信仰告白をなさった後は母上と共に教会の礼拝の時の託児当番をしたり教会学校の先生としてもご奉仕なさいました。中高生時代は教会の少女たちのグループでバレーボールやゲームをしたのしんだり夏にはキャンプで聖書研究をしました。先生は英和でも毎年中2夏期学校に参加し

中学部部長 清野 禮

てくださり、水泳の初心者の方の指導を長いあいだ水につかりながらして下さいました。大学生の時もキリスト教のサークルに属し、その仲間から宗教的な良い刺激を与えられ信仰が深められました。

先生は大学では、自然科学を専攻されました。私は先生とお話して先生は理科系の方だといつも思っていました。先生は大学を卒業されるとき、ご自分の生涯の仕事を決めかねていらしたそうです。その時、勧められてJ-3として来日されました。J-3はカナダミッションが、若い教会員を日本に英語の教師として3年間派遣する制度です。先生は日本に来られ、山梨英和で英語をお教えになりました。この3年間は生涯で最も楽しいときであったと先生は懐かしんでいらっしゃいます。

3年の後カナダに帰られた先生は英語を母国語としない人に英語を教えるコースでマスターをおとりになりました。そして宣教師としてまた日本にいらしたのです。その時は鳥居坂の宣教師館に住み、日本語を勉強しながら、英和の短期大学で授業を受け持たれたり、東大生のグループに英語を教えたりなさいました。その後静岡英和に赴任され20年間英語をお教えになりました。今も理事として責任をとっておられます。

休暇でカナダに帰国された先生は3年の間サスカチワン州の教会で牧師の勤めにつかれました。再び来日された先生は1984年から東洋英和女学院中高部で英語を教えてくださいました。先生は

どのような方だと思いますかと中学部の先生に聞いてみました。公平で正義感があり、自分には厳しいが、とっても暖かい方という答えでした。私は先生と親しくお交わりするようになったのは1993年第一回カナダ学習旅行にご一緒したときからです。先生は由緒ある信仰の持ち主でいらっしやいます。由緒あると申しましたのは年代を重ねた、また精練されたとうしましょうか、決して揺らぐことのないものです。先生はとても愉快的楽しいお人柄ですがいつもその基本には自分には厳しく人には優しく只そこにいらっしやるだけで安心で、こころが導かれるような感じです。突然お客さまに授業を参観させていただきたい、とかその他さまざまな依頼に対してnoといわれることはありませんでした。何回かお授業を拝見いたしましたが生徒たちは伸び伸びとたのしそうに授業を受けていました。英会話の授業は中1のみ週に

2時間、他学年は1時間ですので、生徒と深い、十分な交流ができなかったのは先生も残念に思っ
ていらっしやいます。先生は中2の夏期学校の特別礼拝やクリスマス礼拝の説教もしてくださいました。その中で印象深く心にのこっているのは、蝶の羽化するときもがきくるしんでいるのをみて、少年が繭を切り開いて羽化を助けやったところその蝶はとぶことができなくなった。健全な成長のためには羽化の苦しみを乗り越えていかなければならないと話されたことです。生徒の教育について深く心得るべきことだと思います。先生が私たちの群れから離れて行かれることは私にとってまた多くの先生にとって寄るべき大樹を失う気持ちはです。でも先生が教えてくださった多くの物を継承して新しい校舎に相応しい生徒を育てていきたいと決心しています。

メリル エリザベス ブラウン先生 略歴

Merrill

Elizabeth

Brown

1931年10月29日	カナダ ウィニペグで誕生	1959年	東洋英和女学院 中・高部
1952年	マニトバ大学 理学部 卒業		(~1960年)
1952年	日本で3年間奉仕する「J3」として 来日	1960年	静岡英和女学院 (～1980年)
1952年	山梨英和学院に教育宣教師として赴任 (～1955年)	1962年	ミシガン大学大学院 教育学部 卒業
1957年	マニトバ大学 教育学部 卒業	1981年	カナダの教会で牧会 (～1983年)
1957年	東洋英和女学院 短期大学 (～1960年)	1984年	東洋英和女学院 中・高部
		1995年	東洋英和女学院 中・高部「論叢」に 自伝を執筆

「日本での宣教活動での思い出」

Merrill Elizabeth Brown

暖かなお言葉をいただき、ありがとうございます。私は今マタイによる福音書：6を思い出しています。偽善者^{きぜんしや}達が人からほめられたことについてイエスがつぎのようにおっしゃいました。

「はっきりあなた方に言うておく。彼らはすでに報いを受けている」と。私もあの偽善者達と同じようにもう報いを受けてしまったのではないかと不安を感じています。

皆さん、今の季節、一番いそがしい時に私のために集まって下さって本当にありがとうございます。もちろん私個人としてだけではなく今の所では私が最後のカナダ合同教会の婦人宣教師という気持ちでいらして下さったと思います。代表者として心から感謝を申し上げます。「日本での宣教活動での思い出」と言う立派な題をえらんだのは私ではありません。先日の学院送別会の時話したように昔の宣教師の事を考えると私は宣教師と呼ばれる資格はないように思われます。しかしそうは言ってもただ一つの点では私にもその資格がありました。それは日本に来られない、宣教を支えているカナダの教会員の代表になるということでした。言い換えれば私はその人達の手となるものだったのです。経済的にカナダ合同教会はだんだん弱ってきてこちらの方の学校も宣教師のための経済的な援助をしなければならなくなりました。ですから私は宣教師という立場から外されているような気持ちになりました。ある時期それが悩みの種になりましたが今はたんに同僚として受け入れ

られたことも素晴らしいと思っています。

私がJ-3として日本に来た最初の目的は世界中を見物しようというような単純な気持ちでした。そして、ついでに役に立つことが出来たらなおいいなあと思いました。私は特別な才能やタレントはなかったのですが日本には私の母国語をならいたい人が沢山いると聞きました。英語をとおして国際交流がうまく出来世界平和の土台になるという希望をもって日本に来ました。私は私が生まれ育った環境でキリスト者になりましたが日本には違う文化や宗教があるはずですし私はもちろん出来るだけキリストに従う生活をするべきですが日本人をキリスト教に引っ張り込む義務はないという考えでした。

最初の3年間は甲府の山梨英和に派遣されました。第二次世界大戦が7年前に終り占領が終わった年に来ました。日本はまだ貧乏で爆撃のあとがまだ残っていました。お米も配給で旅館に泊る時は自分のお米を持って行って旅館に渡さなければなりませんでした。

私達の乗った貨物船の出発が何回も延びたために私達が日本に着いたのは10月の中旬でした。その上、太平洋の途中、船長さんは行き先を横浜から神戸に変更するようという命令を受けたのです。Miss Rourke とMiss Leathという大先輩が私達と一緒にだったのに、婦人伝導部代表のMiss Hamiltonは東京から12時間以上離れた神戸まで迎えに来て私達を東京に連れて来て下さいまし

た。一晚東洋英和の宣教師館で泊まりました。その時gracious living を経験しました。夕食はJane Austin のPride and Prejudice の時代に帰ったような感じでした。Table にあるはずの物が無い場合にも自分で取りにいったはいけませんでした。当番hostess が手伝いさんと呼ぶために小さいbellをならすことになっていたのです。

3年の間私はよく甲府から鳥居坂2番地の宣教師館に泊りに来ました。その時信濃町から都電が三河台を通りました。三階建ての宣教師館と学校の寮は回りの一階建てや二階建ての住宅地の中で目立っていました。

その3年間はとても楽しかったです。学校と教会を通していろんな日本人の友達が出来ましたし先輩の宣教師のお陰でいろんなことをならう事ができました。そうして日本の文化の中でもイエスは力のよりどころになるということが分かるようになりました。ですからカナダに帰ってから教会の仕事をしていこうと思ってThe United Church of Canadaの宗教教育学校に入り、専任宣

教師として又日本に戻ることにしました。前と同じように私に出来る仕事と言うのはやはり英語を教えることでした。交わりと仕事を通して神様の愛が現れるでしょうという考えでした。それが宣教だと思います。又それはキリスト者だれでものも使命だと今でも思っています。

日本に戻ると今度は東京でした。日本語学校に通いながら東洋英和短期大学で週2時間授業を持つことになりました。そして1959年の春から一年間中高部にも授業がありました。私はEDCの顧問でしたが生徒が先生はno touchという方針でよくやったことにびっくりしました。

こんど東洋英和に来てからも色々な楽しい思い出がありますが一番楽しかったのは夏期学校とカナダ学習旅行でした。又カナダ合同教会への御寄付や私へのお心づかいなども忘れられません。

長い間お世話になって、本当にありがとうございます。これから日本を離れても皆さんとの縁は切れないと思います。どこかで会うことが出来るのを楽しみにしています。ごきげんよう。

ブラウン先生への感謝

高等部教諭 松田 昭彦

昭和59年4月に就任されることになったブラウン先生を御存知のある英語科の先生が、「今度来られる先生は元気がいいですよ。」と言われた。お迎えした先生は、そのとおりの先生だということが次第に分りました。英語科では会話の先生が専任2人で講師が数名という時期が長かっただけに、もうひとりの新任のディクリーク先生を含めて専任3人という嬉しい陣容となりました。

先生は英語科会でいくつかの提案をされた。「(1)英会話の科目を独立させること。(2)高3の授業は、3名の教師が交代で教えること。」

従来の様な「英語Ⅰ」または「英語Ⅱ」の中に含まれるかたちの英会話の評価ではなくて、独立した科目として評価されると、生徒は会話をもっと重要視するであろうという発想でした。当時は、選択科目としてLL授業が独立した科目であ



野尻湖にて 一中2夏期学校

りましたが、英会話を独立させることには、とまどいもありましたが、賛同し、現在にいたっています。又、高3という最高学年での会話では、特に会話、作文を3名の教師がそれぞれ教えて変化をもたせるというもので、これも現在に至っています。更に会話の教科書が、文法中心教科書から、テーマ別教材へと変わりました。この転換は、思い切ったものだったと思います。

先生は、日本語がお上手でしたが、決して生徒の前では日本語をお話しにならず、その代り忍耐よく生徒の英語を聞いておられました。ある時、教師同士の日本語での会話を聞いて、「ブラウン先生って、日本語が話せるんだ。」と驚いた生徒がいました。私には、徹底したブラウン先生の、英語での生徒との会話に対する熱意に感銘をうけました。

先生は高校生の礼拝で時々、お話をされました。毎回、先生のお話は心に沁みるものでした。先生は、大学時代に神の存在に疑問を抱かれたとのことで、そのことが、先生の福音理解をより根源的、実存的にならせたのではないかと思います。

「神の御旨」は人間には仲々分らないけれど、御旨に従っていくことを真剣に求められたのだと思います。先生の最後の礼拝のお話でそのことが良く分かりました。古い英和の卒業生のことをお話しになれましたが、80歳代のこの女性との長い

交わりを通して、度重なる人生の試練をうけて、「神の御心が分らない。しかし御心に従いたい。」というこの女性との交わりを先生は感謝しているとおっしゃいました。先生の信仰の姿勢と同時に、英和の卒業生に、信仰者としての交わりを見出されたことに感銘をうけました。

先生が都会よりも自然を好まれることは知られています。野尻でひと夏、籠りきりで過ごされるのは、余程、湖畔の生活がお好きなのでしょう。1993年7月、カナダ学習旅行が初めて行われました。オンタリオ湖の湖畔に建つ200年前の建物を見物した時のことです。一階には昔の持ち主の調度品、グランドピアノ、東洋の磁器類が所狭しと飾られ、二階の一室はながめの良い簡素な寝室でした。その部屋へ入って、ほっとした私達は湖上を渡ってくる涼しい風を心地よく感じていました。先生は、「こんな処に住みたいねえ。」と言われました。湖をながめながらの毎日。毎日続くとすれば、私なら飽きるだろうと思ったものでした。自然への強い愛着をその時、先生の中に見た思いでした。自然に対する御関心、飾らないお人柄、意志的な信仰を先生について強く印象づけられました。自然豊かなカナダでの御生活が、日本にもまして、豊かでありますよう心より願います。多くのものを有難うございました。

あとがき

日本での宣教活動を終えられた先生が、日本を去られてからはや4ヶ月が過ぎました。英和の中高部の校舎は新しくかわりましたが学校生活のあちこちにブラウン先生の思い出が残っています。夏が近づき、夏期学校の季節となってその思いはいっそう強くなることでしょう。

ブラウン先生、どうぞお元気で。

(中高部 朽木久子・古澤育恵・斉藤郁子)